翔猿関の勝ち負け技しらべ

ぼくは、翔猿関をおうえんしています。翔猿関は、しんちょう173cm、体じゅう140kgの小兵力士で、2020年はらまくのうち力士です。ぼくは、翔猿関がことしはどんな技で勝ち負けているのかを知りたいと思いしらべてみました。

よそう

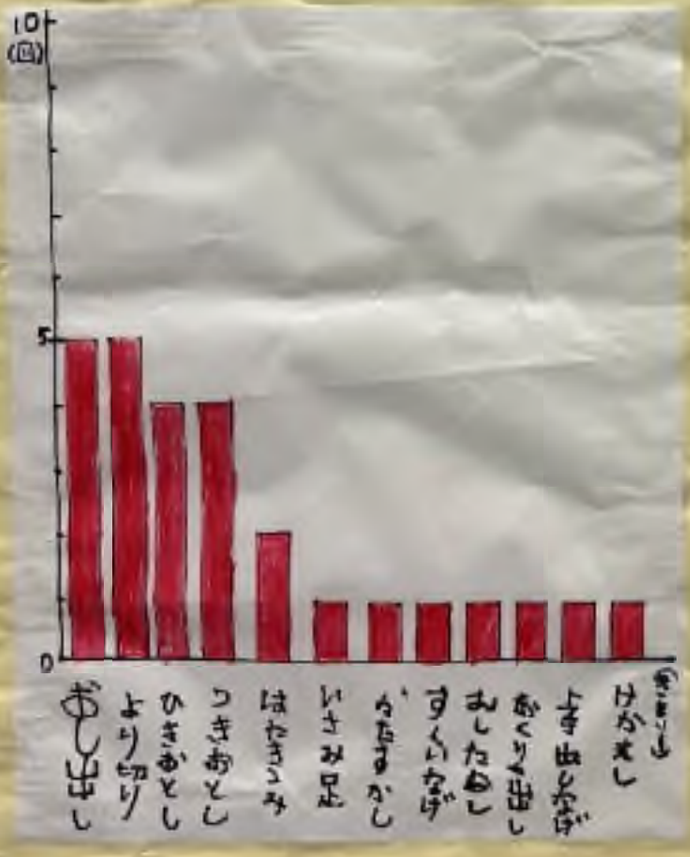
翔猿関は、すばやく動いてまわしをとらないことが多いので、はたきこみで勝つことが多いと思います。負けるときは、おくり出しやおし出しが多いと思います。

たしかめ

①7月場所15日間のとりくみをテレビでみてきまり手をかみに書きました。
②1月・3月・5月場所は、日本すもう協会のとりくみけっかをしらべてきまり手を書きました。
③勝ち負けごとにきまり手をわけて、数をくらべてどれが多いかしらべました。
④しらべたけっかをグラフにしました。

けっか

勝ったときのきまり手（27勝）



負けたときのきまり手（33敗）



まとめ

翔猿関は、立ちあがりからよく動きまわるので、まわしをとってねっこにくずにおれてをはたきこんでいると思っていました。しかしけっかをみると、よりきりやおし出しが多いので、おれてをどのようにおいこんで勝っているかが分かりました。負けかたは、あっとうてきにおし出して負けていました。勝ちにも負けにもおし出しが多かったことがいがいでおどろきました。おし出しはまわしをとらないし、よりきりは、体をおっきくさせる技でまわしをとらなくてもよいので、体の小さな力士が体の大きな力士に勝つための技なのかなと思いました。月勝ったときのきまり手の中には、いさみ足が、はたきこみといったむずかしい技もあったので、これからもすばやく動いていろいろな技で勝ちをのばしてほしいです。